

臼杵市 地震ハザードマップ

～危険度マップ編～



危険度マップについて

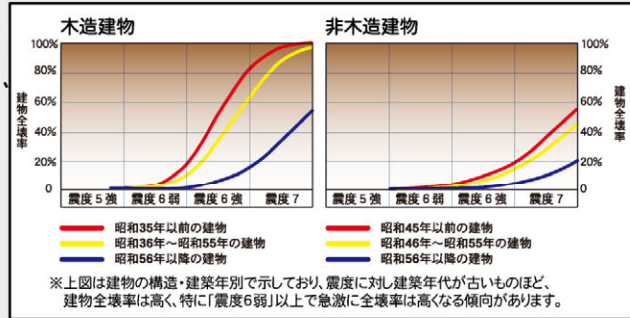
臼杵市では、今後発生する可能性のある地震について、市民の皆様の日頃からの備えに役立てていただくために、「地震ハザードマップ」を作成しました。この危険度マップは、地震の揺れによって発生する建物被害の分布を、相対的に表したものです。

具体的には「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表現しています。この危険度は250mメッシュ単位で分割した地域に建っている建物の中で「全壊」する建物の割合により設定しています。危険度の数値が大きくなるほど地域の建物を受ける被害が大きくなるのが想定されます。

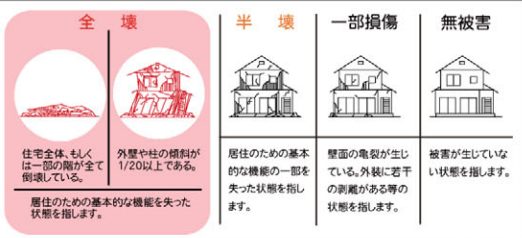
ご自宅の周辺および、よく行く場所等の危険度がどのくらいなのかを確認し、建物の安全性について考えてみましょう。

臼杵市

過去の地震による震度と建物全壊率の関係

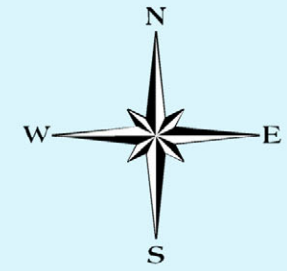


地震による建物の損傷状況



わが家の耐震チェック

- 建てたのはいつ頃ですか？
昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた家は耐震性が低いとされています。
 - 建物はどうな形ですか？
2階が隅より張り出していたり、増築で建物が複雑な形になっていませんか。
 - 壁の配置はバランスがとれていますか？
壁の少ない家や開口部の大きい家は、地震時に倒壊の危険性が高いです。
 - どのような基礎ですか？
玉石基礎では、玉石に柱を架立してただで固定されていません。
 - 傷んだところはありませんか？
腐っていたり、シロアリ被害が発生していませんか。
- 【住宅の耐震診断について】
一般に、地震が発生した場合に建築物が倒壊する割合は、古い建築物ほど高くなりますが、特に高い傾向を示すのが(古い)木造住宅です。
古い耐震基準が適用されていた時期(昭和56年5月以前)に建てられた家や、壁が少ない造りの家などは耐震性が低くなっていますので、心当たりのある方は専門家による耐震診断を受けられることをお勧めしています。



凡 例	
---	行政界
-----	大字界
●	臼杵市役所
●	避難所

緊急輸送道路

大分県指定路線	
幹線道路	国道10号線 (宮崎県境～大分市)
代替道路	国道326号線 (宮崎県境～大分市)
臼杵市指定路線	
幹線道路	東九州自動車道 (大分市～臼杵市) 国道217号線 (大分市～臼杵市) 県道臼杵坂/市線 (205号線大分市～臼杵市) 県道臼杵上戸次線 (25号線大分市～臼杵市)
	国道502号線 (豊後大野市～臼杵市) 県道臼杵大南線 (206号線大分市～臼杵市) 国道217号線 (佐伯市～臼杵市)
代替道路	国道502号線 (豊後大野市～臼杵市) 県道臼杵大南線 (206号線大分市～臼杵市) 国道217号線 (佐伯市～臼杵市)
その他の県道	
県道21号線、633号線、204号線 他	

※幹線道路が被災し通行不能となる場合、これに代わる道路として代替道路が指定されています。

危険度の区分

危険度	建物全壊率
高	7 30%以上
	6 20%～30%
	5 10%～20%
	4 7%～10%
	3 5%～7%
	2 3%～5%
低	1 3%未満 (0%は除外)

※危険度マップは、建物が「全壊」する確率を危険度区分で、色分けして表示したものです。建物全壊率が0%の区域は着色をしていませんが、建物の危険性が全く無いという意味ではありません。着色がされていない区域の建物も、「一部損傷」や「半壊」となる可能性が十分にありえます。

地震から身を守る心得10ヶ条

- まず落ち着いて身の安全を図りましょう**
何よりも大切なのは命。地震が起きたらテーブルの下にもぐるなど、まず第一に身の安全を守りましょう。
- すばやく火の始末あわてず、さわがず冷静に！**
「火を消せ！」とみんなで声を掛けあい、使用中の調理器具や暖房器具などの火を確実に消しましょう。
- 戸を開けて出口を確認しましょう**
建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入り口が開かなくなることがあります。揺れを感じたら、玄関などの扉を開けましょう。
- 火が出たらまず消火！**
万が一火が出たら「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求めて初期消火に努めましょう。
- 外へ逃げるときはあわてない！**
外へ逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、周囲の状況を確かめ冷静な行動を心がけましょう。お年寄りや子供の手をしっかり握って互やガラスなどの落下物に注意しましょう。
- まず狭い路地、壁ぎわ、がけや川べりに近寄らないように**
ブロック塀、門柱、自動販売機などは、倒れやすいので注意しましょう。がけや川べりも崩れやすいので、近づかないようにしましょう。
- 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意しましょう**
山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早く安全な場所へ避難しましょう。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に！**
車を問わず、指定された避難場所に徒歩で避難をしましょう。荷物を持ちすぎると避難の支障になります。揺れを感じたら、玄関などの扉を開け避難の可能性があります。
- みんなで協力して「応急救護」を！**
お年寄りや体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合い応急救護をしましょう。
- 正しい情報をつかみ、余震に注意しましょう**
テレビやラジオ、市からの正しい情報を得て、うわさやデマに振り回されないようにしましょう。